

## 1月きゅうしょくだより



あけましておめでとうございます。冬休みはどのように過ごしましたか？  
いよいよ3学期ですね。明日から給食も始まります。風邪やインフルエンザも流行して  
いますので、体調管理にはより一層気を付けて一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。  
今月は「全国学校給食週間」があります。11月にアンケートをとったリクエスト献立が登場します。

## 今年はうま年！



## お年玉はもちだった！？

お正月は、普段より日本文化を感じる機会が多かったのではないか。  
さて、子どもたちにとって、お正月の楽しみといえばお年玉。新年を祝って、大人から子どもへ  
お小遣いを渡す風習です。もともとは、お正月の「歳神様（年神様）」にお供えした「もち」を、  
歳神様からの贈り物として分け与えたことが始まりとされ、「年玉」とは「歳神様の魂」を意味します。



## 1月11日は鏡開き



鏡もちを小さく割ってお汁粉などに入れ、無病息災を願って食べる行事です。もちを小さくするのに、包丁など刃物を使うのは武士の「切腹」を連想させるため縁起が悪いとされ、木づちや手で割ります。また、「割る」ではなく「開く」という縁起の良い言葉が使われます。



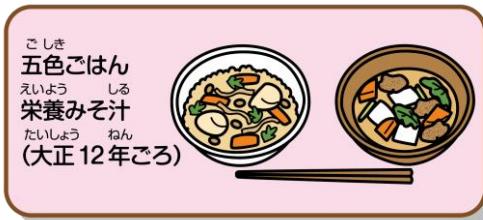
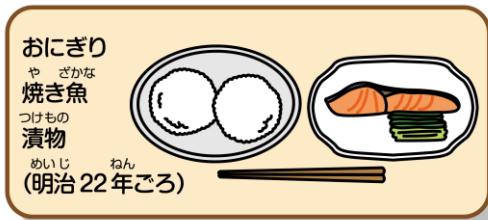


1/24～1/30は  
「全国学校給食週間」です

がつ こう きゅう しょく はじ

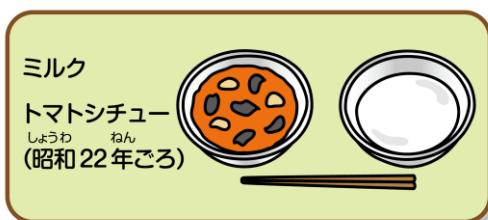
## 学校給食の始まり

めいじ 明治22（1889）年、山形県の私立忠愛小学校で、貧しい子どもたちへ食事を提供したのが始まりとされています。この学校は大誓寺というお寺の中にあり、お坊さんたちが家々を回ってお経を唱え、いただいたお金や食べ物を使って食事を用意していました。大正12（1923）年には、子どもたちの栄養状態を改善するための方法として、学校給食が国から奨励されるなど、各地へ広がりましたが、戦争による食料不足で中止せざるを得なくなってしまいました。



## 支援物資による学校給食の再開

せんご 戦後、子どもたちの栄養状態の悪化を心配する声が高まり、昭和21（1946）年12月24日にLARA（アジア救援公認団体）から給食用物資の寄贈を受けて、翌1月に学校給食が再開されました。当初は12月24日を「学校給食感謝の日」としていましたが、その後、冬休みと重ならない1月24日からの1週間を「全国学校給食週間」とすることになりました。



## バラエティー豊かな献立内容に

しょうわ 昭和29（1954）年に「学校給食法」が成立したこと、実施体制が法的に整い、学校給食は教育活動として位置付けられるようになりました。主食はパンが中心でしたが、昭和51年に米飯（ご飯）が正式に導入されると、カレーライスや炊き込みご飯などが登場し、献立内容が充実してきました。



このように、学校給食の内容は時代とともに変化していますが、いつの時代も変わらずに、「子どもたちが飢えることなく、おいしく食べて、健やかに成長できるように」といった願いが込められています。現代では、大人になっても自分自身で考えて健康な食生活を続けることができるよう、学校給食は「教材」としての役割も担っています。八尾支援学校では全国学校給食週間にもう一度食べたい『リクエスト献立』が出ます。ぜひご家庭でも給食の好きな献立や今日の給食を話題にしていただければと思います。

にほん がつ こう きゅう しょく

# 日本の学校給食のあゆみ

